箱田川西遺跡

都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とし、坂東太郎として名高い利根川がその清流を広瀬川、桃木川などに分流し、市域を貫流する水と緑にあふれた県都であります。

箱田川西遺跡は、利根川の右岸地域で市街地から南西へ2.5km程の所にあり、高崎市日高町、新保田中町と境を接しています。かつては、前橋の穀倉地帯として田園風景が広がっていましたが、現在は中心市街地の再開発事業や区画整理事業とともに民間の住宅地開発等が行われ住宅街となっています。さらに各交通網の充実・整備に伴い沿線の開発も盛んに進められています。

発掘調査は、都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事に先立って行われたものであります。

調査では、古墳時代の溝状遺構4条、平安時代の水田跡、近世の溝跡1条、土坑2基が検出されました。とくに平安時代の水田跡には、ほぼ真北に向いている畦畔が1本検出されましたが、大畦畔の検出はなく、条里制と関連づけるのは難しい状況ですが、近隣遺跡の発掘成果との関係を調べていく上での資料として、少しでも役立つことを願っています。発掘調査に当たり、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々の御理解と御協力に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡 辺 勝 利

例　　言

1　本報告書は、平成10年度都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事に伴う箱田川西遺跡発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地　群馬県前橋市箱田町1590－1番地外

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　渡辺勝利）の指導のもとに、前橋市都市計画部街路課の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。

調査担当者　眞塩明男・古屋秀登（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）

4　発掘調査期間　平成10年11月12日～平成10年12月2日
整理期間　平成10年12月3日～平成11年3月18日

5　調査計画面積　750㎡

6　出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。

7　測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…荻野博巳、調査指導…新保一美、調査員…勝田貞幸、測量・実測…板垣宏，山口和宏、写真撮影…荻野博巳，勝田貞幸、安全管理（重機オペレーター）…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。

8　本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を荻野博巳、編集・校正…須永眞弘，金子正人，新保一美、実測図の整理他…板垣宏，勝田貞幸，権田友寿，山口和宏、写真整理・内業事務…須永豊，柴崎信江が担当した。

9　発掘調査に参加した方々（敬称略）　内山恵美子　桑島英彰　中川住一　都丸藤子　石川サワ子

凡　　例

1　遺跡の略称は、10A88である。

2　遺構名の略称　溝跡…W、土坑…Dで表示した。

3　実測図の縮尺　遺跡平面図 1/200、水田跡 1/40,1/100、溝跡 1/40,1/100、土坑1/40を使用。

4　挿入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。

5　各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点A-3 グリッド地点 第IX系座標値 X 40760.000m，Y-70060.000m、水準点　BM.…99.000m、等高線5㎝、グリッド4m間隔

6　土層断面の土色名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局　監修　財団法人 日本色彩研究所色票監修）による。

7　土層注記及び本文中にはAs：浅間山、Hr：榛名山二ツ岳を使用し、断面図の地山部分に斜線を使用した。

目　　次

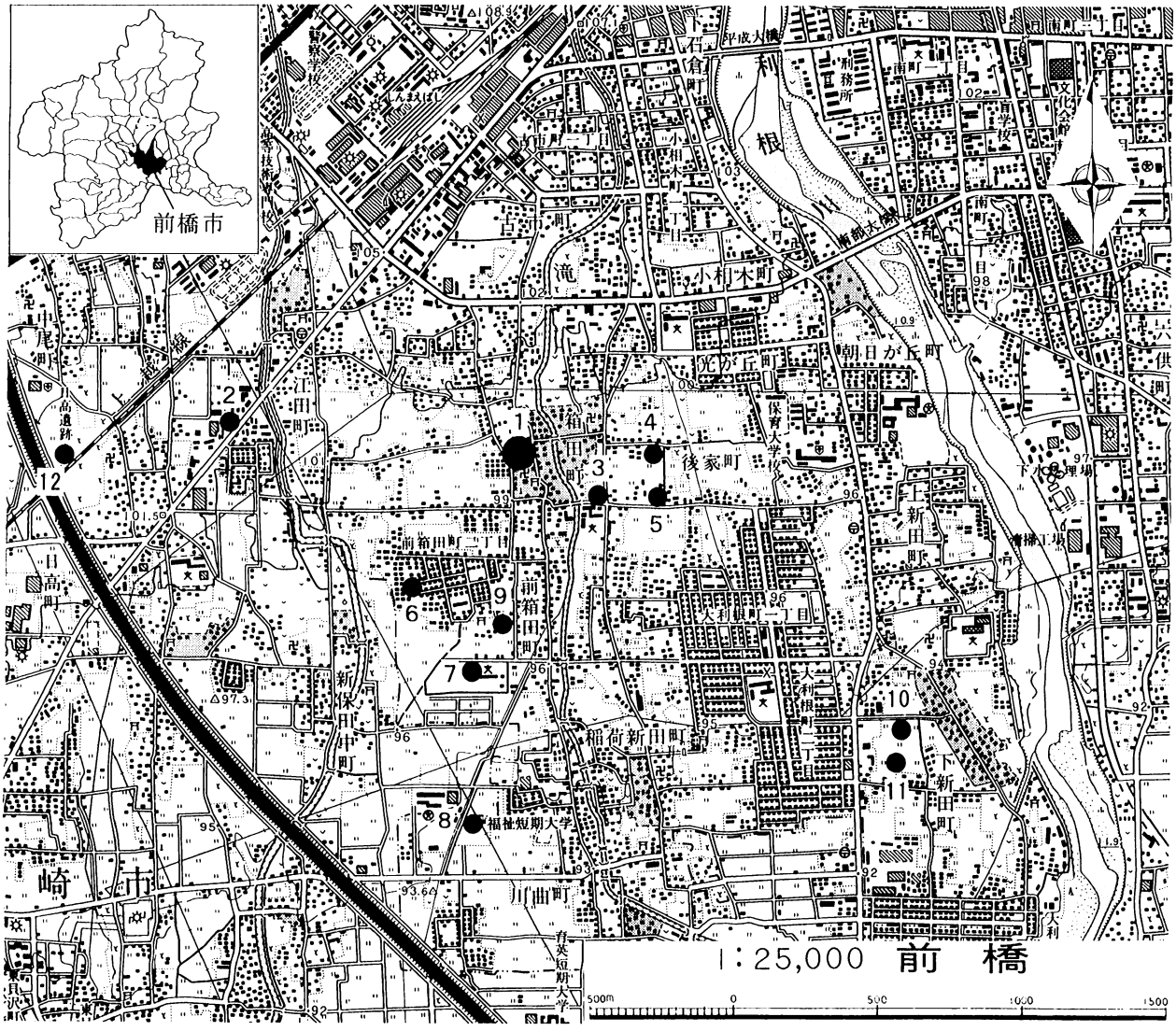
序
例　言
凡　例
目　次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境……1
1.遺跡の立地……1
2.歴史的環境……1
Ⅲ　調査の経過……1
1.調査方針……1
2.調査経過……1
Ⅳ　層　序……3
Ⅴ　検出された遺構……3
1.概　　観……3
2.As-C軽石層下遺構……4
3.As-B軽石層下水田跡……4
4.近世以降の遺構……4
Ⅵ　ま と め……4

挿　　図

第１図　周辺遺跡図（S＝１：25,000）
第２図　遺跡の位置と周辺図（S＝１：5,000）……２
第３図　基本土層断面図……３
第４図　箱田川西遺跡平面図……６
第５図　（南側）W－２～５平面・断面図、
　　壁土層断面図……７
第６図　（北側）畦畔平面・断面図……７
第７図　（北側）畦畔断面図……８
第８図　（南側）W－１平面・断面図 ……８
第９図　（南側）D－1,2平面・断面図……８

写真図版

図版１　調査前現況（南から撮影）、深掘り土層断面、遺跡全景（南から撮影）、南側調査区全景（西から撮影）、(右)W－２・(左)W－３全景、W－２セクション、(右)W－４・(左)W－５全景、W－１全景（東から撮影）
図版２　北側調査区（As-B軽石下水田跡）全景、畦畔検出状況（北から撮影）、As-B軽石下水田跡検出状況、D－１完掘状況、D－２完掘状況



第１図　周辺遺跡図（S＝１：25,000）

I　調査に至る経緯

前橋市箱田町1590-1番地外に、都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事〔事業者 前橋市長萩原弥惣治（前橋市都市計画部）〕の実施計画が前橋市教育委員会で事前協議が行われ、埋蔵文化財の有無について試掘調査を実施したところ、浅間B軽石堆積面が確認された。このことから周辺の遺跡等の資料や近年発掘調査された結果などを踏まえて水田遺構が遺存する可能性が高いと判断されたため、事業担当者（前橋市都市計画部街路課）と協議を重ね、開発事業の実施に先だって埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

発掘調査は、前橋市長と前橋市埋蔵文化財発掘調査団の間で委託契約を締結し、同調査団から業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社が実施した。

II　遺跡の位置と歴史的環境

1．遺跡の立地

箱田川西遺跡は、前橋市街地の南方に位置し、JR新前橋駅より南へ1.2km程の所にある。遺跡の周囲には、国道17号線より南下し、南部大橋を通り市中心部へと向かう環状線が北0.5kmの所を東西に走り、約150m東には一級河川の滝川が南流する。滝川の右岸は市道が南北に通り住宅地が連担している。近年、道路交通事情から道路建設が進められ、本遺跡も都市計画道路用地を対象とした発掘調査である。

当遺跡は、前橋市の西部及び南部を北西から南東に広がる前橋台地のほぼ中央で、利根川の右岸にあたる標高約99mの平坦な地形に位置する。前橋台地は、火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続く。なお、現在の利根川は、中世末頃に変流したとされている。

2．歴史的環境

本遺跡（1）の所在する前橋台地周辺は、1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道の建設に伴う発掘調査で古代水田跡が多く検出されている。現在でも前橋南部地域では、水田耕作が行われ、滝川などの河川の利用も見られる。また、染谷川を隔てた西方約1.5kmの高崎市域にある日高遺跡（12）は、本県における水田研究の先駆となった遺跡で、とくに大畦畔が検出されたことで条里的地割の解明を大きく広げる発端となった遺跡である。また、周辺には本遺跡と同時代の平安時代末期の水田跡が多くあり、勝呂遺跡（2）、村前遺跡（3）、五反田遺跡（4）、五反田II遺跡（5）、箱田境遺跡（6）、前箱田遺跡（7）、柳橋遺跡（8）、稲荷遺跡（9）、下新田中沖遺跡（10）、下新田中沖II遺跡（11）などで検出されている。北西約2.3kmには、奈良・平安時代における上野国の政治・文化の中心地としての推定国府域が存在することから、本遺跡と共に前橋南部地域や高崎市域にある日高遺跡を含めた地域の水田跡は、律令経済を支える水田地帯であったことがうかがわれる。

III　調査の経過

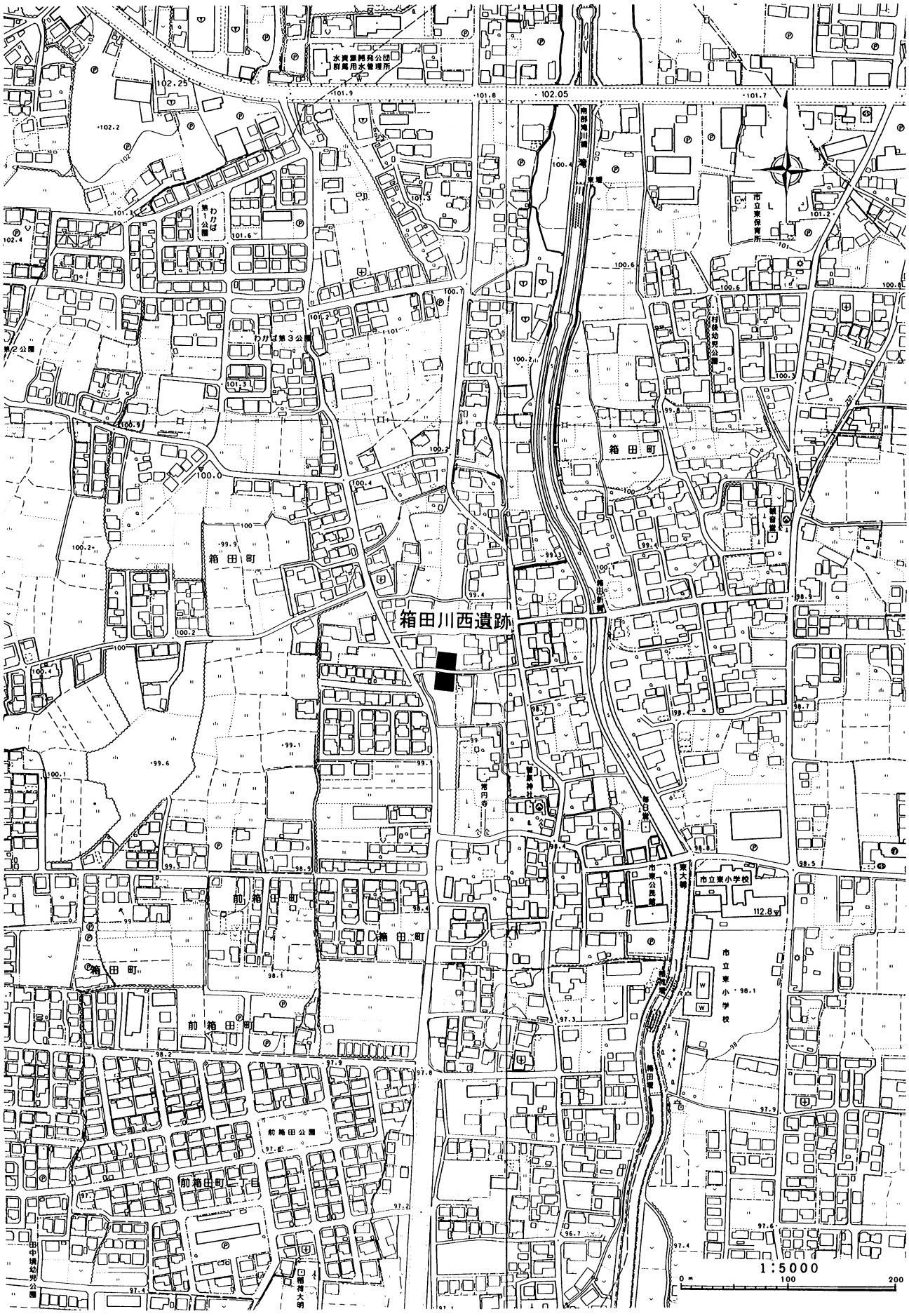
1．調査方針

調査区の設定は、公共座標に基づき東西方向に延びる緯線に直交する経線を算用数字で、南北方向に延びる経線に直交する緯線をアルファベットで付称して、4mグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は、1/20,1/40,1/100,1/200の縮尺を使用し、平板・遺形による細部測量で作図を行った。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

2．調査経過

平成10年11月12日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレを設置すると同時に、調査区内を東西方向に道路が通っていることや住宅地が隣接していることから調査区外周に、防護ネットを張り安全対策を行った。これに引き続いて、市調査団の立会・指導のもと重機による表土掘削を行い、調査区内を横切る道路の北側調査区にAs-B軽石堆積面、南側調査区にAs-C軽石堆積面を検出した。またAs-B軽石下水田跡及びAs-C軽石層下の遺構を検出するための精査を行い、順次各調査工程を実施した。



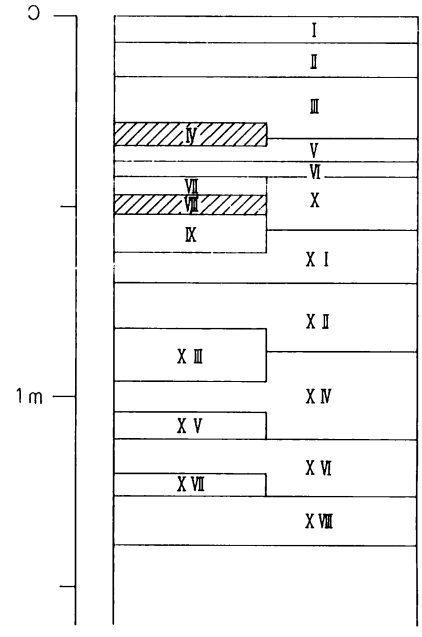
第２図　遺跡の位置と周辺図（Ｓ＝１：5,000）

平成10年11月12日　資材・重機搬入、仮設トイレ設置、安全対策用ネット張り
11月13日　重機による表土掘削開始、遺構確認
11月17日　As-B軽石下、As-C軽石下確認面のジョレン掛け・精査作業の開始
11月20日　基準点及び水準点取り付け測量
11月21日　遺構平面・断面実測開始、遺構写真撮影開始
12月１日　調査終了、埋戻し作業開始
12月２日　埋戻し作業完了、資材類の撤収

Ⅳ　層　　序

本遺跡の標準層位は、北側調査区北東側に入れた深掘りトレンチの土層断面を基本とし、模式的に作成したものである。なお層序の説明と土層断面図は下記に示した。

Ⅰ　砂利　バラス
Ⅱ　灰黄褐色砂質土層　As-B軽石を含む
Ⅲ　にぶい黄褐色砂質土層　細砂、軽石、小礫を含む
Ⅳ　As-B軽石層
Ⅴ　灰褐色粘質土層　白色軽石粒を含む（As-B軽石下水田層）
Ⅵ　黒褐色土層　粘性、締まり有り　細砂と As-C軽石粒を含む
Ⅶ　黒褐色粘質土層　僅かに As-C軽石粒を含む
Ⅷ　As-C軽石層を多量に含む細砂層
Ⅸ　褐灰色粘質土層　As-C軽石粒を含む　斑紋跡有り
Ⅹ　灰褐色粘質土層　As-C軽石粒を僅かに含み、微砂を含む
Ⅺ　灰黄褐色粘質土層　微砂を含み酸化を帯びる　斑紋跡有り
Ⅻ　灰黄褐色粘質土層　斑紋跡有り
XIII　灰黄褐色粘質土層と明褐色鉄分凝縮層を含む
（地下水による酸化）
XIV　灰褐色砂質土層　軽石粒を含む
XV　明黄褐色粘質土層　鉄分の凝縮層を含む
XVI　浅黄色土層
XVII　にぶい黄色砂質土層
XVIII　にぶい黄色粘質土層



第３図　基本土層断面図

本文中に使用した略号は以下の通りである。
As-C軽石：４世紀降下浅間山起因
Ｈｒ・ＦＡ：６世紀初頭降下榛名山起因
As-B軽石：1108年降下浅間山起因

Ⅴ　検出された遺構

１．概観

調査では、調査区内のほぼ中央を東西に横切る道路の北側調査範囲より、As-B軽石堆積下に水田面と畦畔を検出した。また南側調査範囲では、As-B軽石層やその下にある水田跡の土層は既に掘削等により削り取られている状態で、As-C軽石確認面まで遺構は検出されず、その面に古墳時代の溝状遺構４条や近世と思われる溝１条と土坑２基が検出された。調査区の大部分が以前住宅・工場が建っていた場所であるためカクラン部分が多く、遺構の残存状況は良くなかったが、カクラン以外の部分に As-B、As-C軽石の堆積層が残り、その下から遺構が検出された。

2．As-C軽石層下遺構（第４・５図、図版１）

道路南側調査範囲の表土より25～45cm程掘り下げた所にAs-C軽石層を検出した。既にAs-B軽石層やその下にある水田層は削り取られていて、As-C軽石の検出範囲もカクランを免れた南西部分を中心に検出された。遺構は、As-C軽石層下の褐灰色粘質土層を掘り込んで、I－１～２グリッドからJ・K－０～１グリッド内にW－２～５が検出された。いずれも平面形状は北西から南東方向に細長く、断面形状は浅い半楕円状を呈する。規模は、W－２が確認長2.9m、上幅30～40cm、下幅18～30cm、深さ2.5～7cm、W－３が確認長3.0m、上幅25～30cm、下幅８～18cm、深さ3.5～5cm、W－４が確認長5.2m、上幅18～35cm、下幅５～20cm、深さ２～3.5cm、W－５が確認長5.0m、上幅20～32cm、下幅６～10cm、深さ1.5～3cmを測る。いずれも溝の一部分を検出しただけであり、その全体像や用途などは不明である。またW－２の底面は小さい凸凹が見られ、掘削時の使用道具痕とも思われた。覆土は、As-C軽石を含む砂質土である。その他に確認面において、性格不明の小穴が溝状遺構の周辺に見られたが、溝状遺構に伴うものであるかどうかは不明である。この面からの遺物は、流れ込みと思われる須恵器、土師器片が５点検出されている。

3．As-B軽石層下水田跡（第４・６図、図版２）

表土より15～28cm程掘り下げた所にAs-B軽石層を検出した。その堆積状況は北側調査区の西壁側が良く残り、厚さが２～12cm程見られた。その他は建物の基礎部分などがあった所がカクランされていたり、確認面が表土から浅い部分であることなどから踏み固めや耕作がなされていて堆積状況が悪かった。その中でもカクランを受けなかった西壁側のB－０～２グリッド～E－０～２グリッド内にAs-B軽石下水田面と畦畔が検出された。畦畔は、南北方向に延びるものとそれに交差して東西方向に延びるものの一部が検出された。規模は南北方向のもので確認長14.4m、上幅28～44cm、下幅50～84cm、水田面からの高さは、西側で2.5～6.5cm、東側で５～8.5cmを測る。また、南北畦畔と交差する北側の東西方向畦畔で確認長0.8m、上幅12cm、下幅30cm、水田面からの高さは、北側５cm、南側5.5cmを測る。南側の東西方向畦畔では、確認長1.6m、上幅16～22cm、下幅32～44cm、水田面からの高さは、北側1.5～3.5cm、南側3.5～4.5cmを測る。畦畔は表土からの深さが浅い位置で検出されたために踏み固められて、硬く締まった状態であった。また、その周辺には人の足跡と思われる凹みや性格不明の小穴などが検出されたが、流水のための水口や遺物等は検出されなかった。水田の標高は、水田面検出範囲内の北側で98.800m、南側で98.750mを測る。全体の水田勾配は不明である。

4．近世以降の遺構（第４・８・９図、図版２）

南側調査範囲のG・H－０～１グリッド内に溝跡W－１とI－４グリッド内にD－１、K－０グリッド内にD－２が検出されている。いずれもAs-C軽石層より上面は、カクランや掘削により削り取られている状況で、As-C軽石の検出面で確認され、標準土層のIX層下まで掘り込まれていた。W－１の規模は、確認長4.5m、上幅62～82cm、下幅40～64cm、深さ8.5～17cmを測る。覆土は、褐色土や二次的に混入したAs-B軽石を含む灰褐色土であった。遺物は検出されなかった。また土坑の規模は、D－１が長径94cm、短径86cm、深さ22cmの円形。D－２が長径90cm、短径94cm、深さ18cmの楕円形を呈する。覆土は、いずれも褐色砂質土とAs-B軽石が二次的に混入したものであった。遺物は検出されず、用途は不明である。

Ⅵ　ま　と　め

当初、カクラン以外の部分にAs-B,As-C軽石の堆積面が検出されたことから、古墳時代～平安時代の水田跡が検出される可能性が高いと考えられたが、調査の結果北側調査区にはAs-B軽石下の水田跡と畦畔が検出されたのに対して、南側調査区では、As-C軽石堆積面下に溝状遺構を検出しただけであった。

南側調査区で検出したAs-C軽石下の面は、狭い範囲での検出であるが起伏の少ない面で小穴などがわずかに見られた。土層も褐灰色粘質土で水田耕作に適すると思われたが、畦畔等の検出はなかった。また確認面を見ると褐灰色粘質土に橙色をした植物の斑紋が入り、さらに深掘り土層断面でも灰褐色・黄褐色粘質土層と続く下層で斑紋や鉄分凝縮による酸化跡などが見られる。従って、この面は土層の状況や近隣遺跡の自然科学分析結果から判断しても、湿地であった可能性が高いと考えられ、耕作した面であるかどうかは判然としない。

北側調査区では、As-B軽石下に灰褐色粘質土が検出され、その土層で畦畔や水田が作られていることがはっき

りわかる。近年周辺での調査資料や発掘調査結果からも、カクランで削り取られた南側調査区域や遺跡周辺に、かつて同時期の水田跡が存在していた可能性があるといえる。さらに前橋南部地区に見られる条里的水田区画を見ると畦畔がほぼ東西・南北に走行し、互いに直交する規則性が見られ、調査区で検出された南北方向の畦畔もほぼ真北を向き、それに交わる東西方向の畦畔の形状からも規則性がうかがわれる。また日高遺跡で検出された東西方向の大畦畔の延長線から見ると、本遺跡はそのほぼ真東約1.5kmの地点に位置していることが図上で確認できるが、そこからの距離が離れていることや調査区域が狭くカクランが著しいことで、明確に水田跡をとらえられず、大畦畔に相当するものも検出されなかった為、条里制における坪境及び地割りを周辺遺跡と結びつけることはできなかった。しかしながら、As-B軽石下の水田域は国府域周辺から前橋市南部域まで広範囲に続くことが想定され、本遺跡で検出されたAs-B軽石下水田跡もその一部に含まれると考えられる。

参考文献

日高遺跡（II）　1980　高崎市教育委員会

日　高　遺　跡　1982　群馬県教育委員会
　　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

五反田遺跡　1987　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

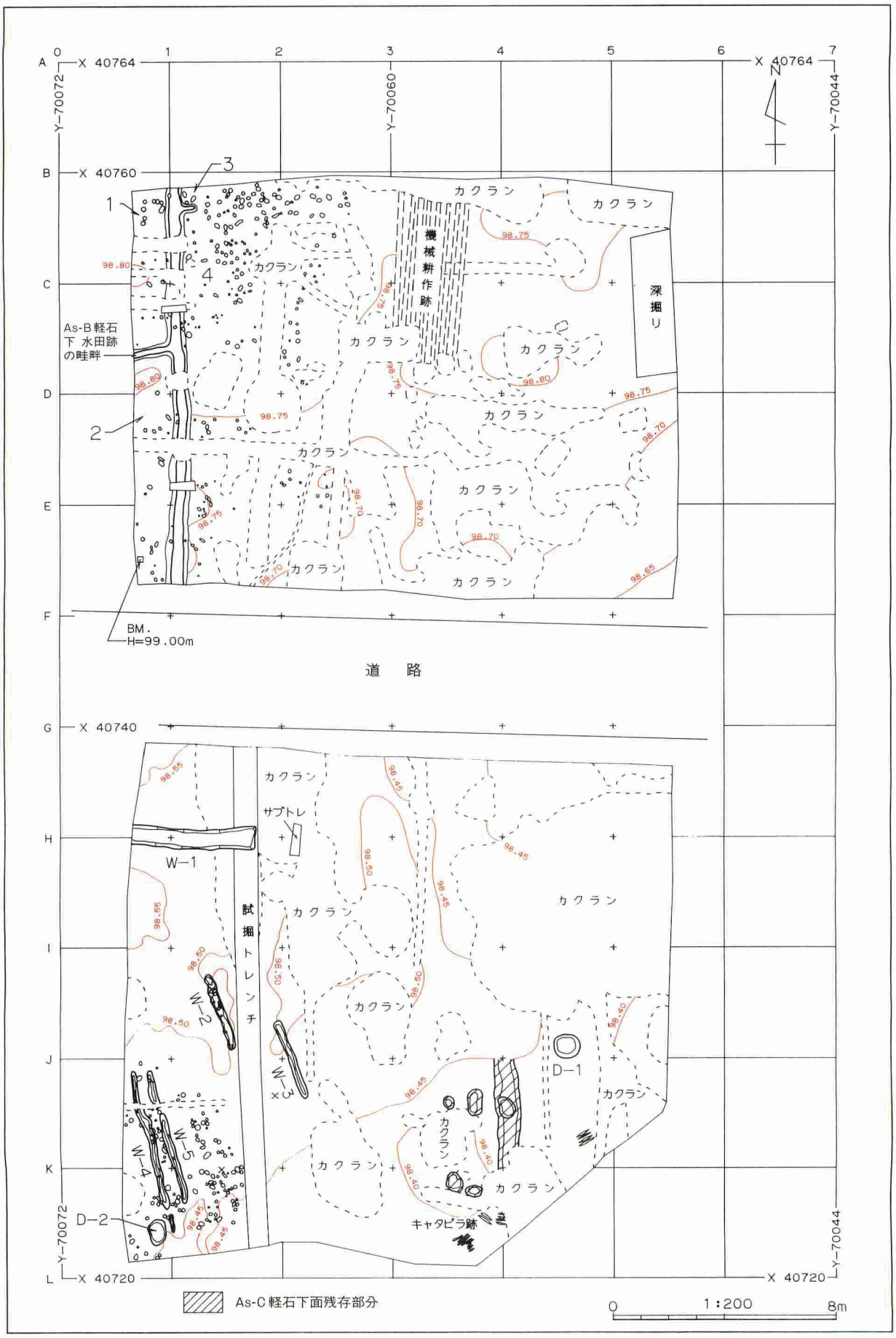
五反田II遺跡　1987　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

村　前　遺　跡　1987　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

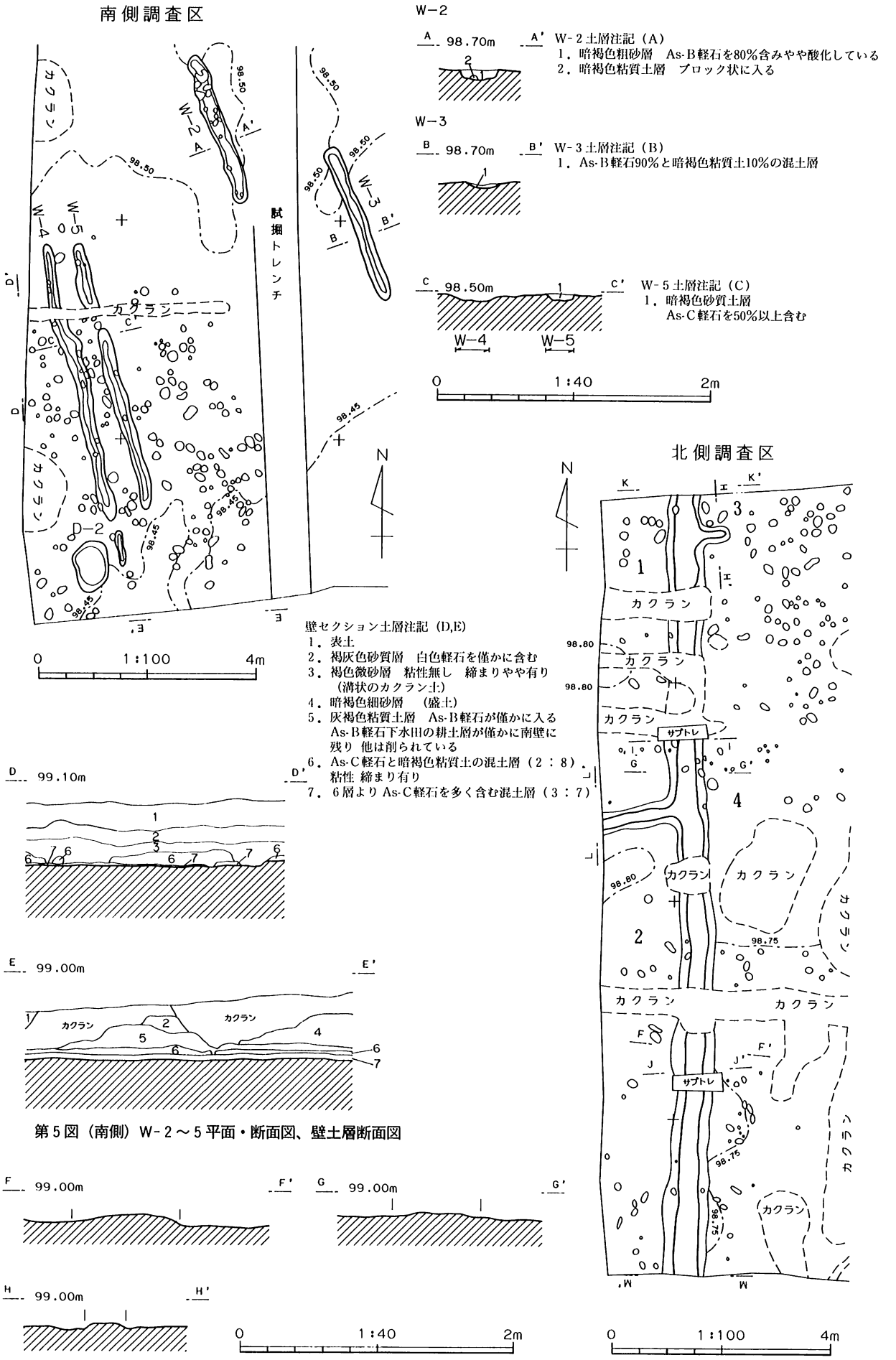
六供下堂木II遺跡　1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

宮地中田遺跡　1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

大　沢　遺　跡　1997　高崎市遺跡調査会

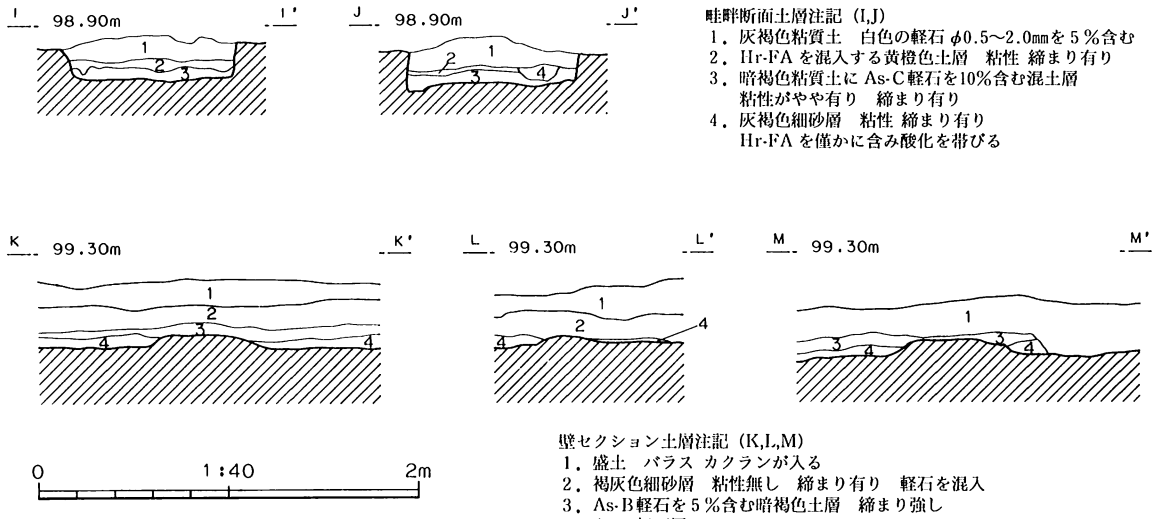


第4図　箱田川西遺跡平面図



第5図（南側）W-2～5平面・断面図、壁土層断面図

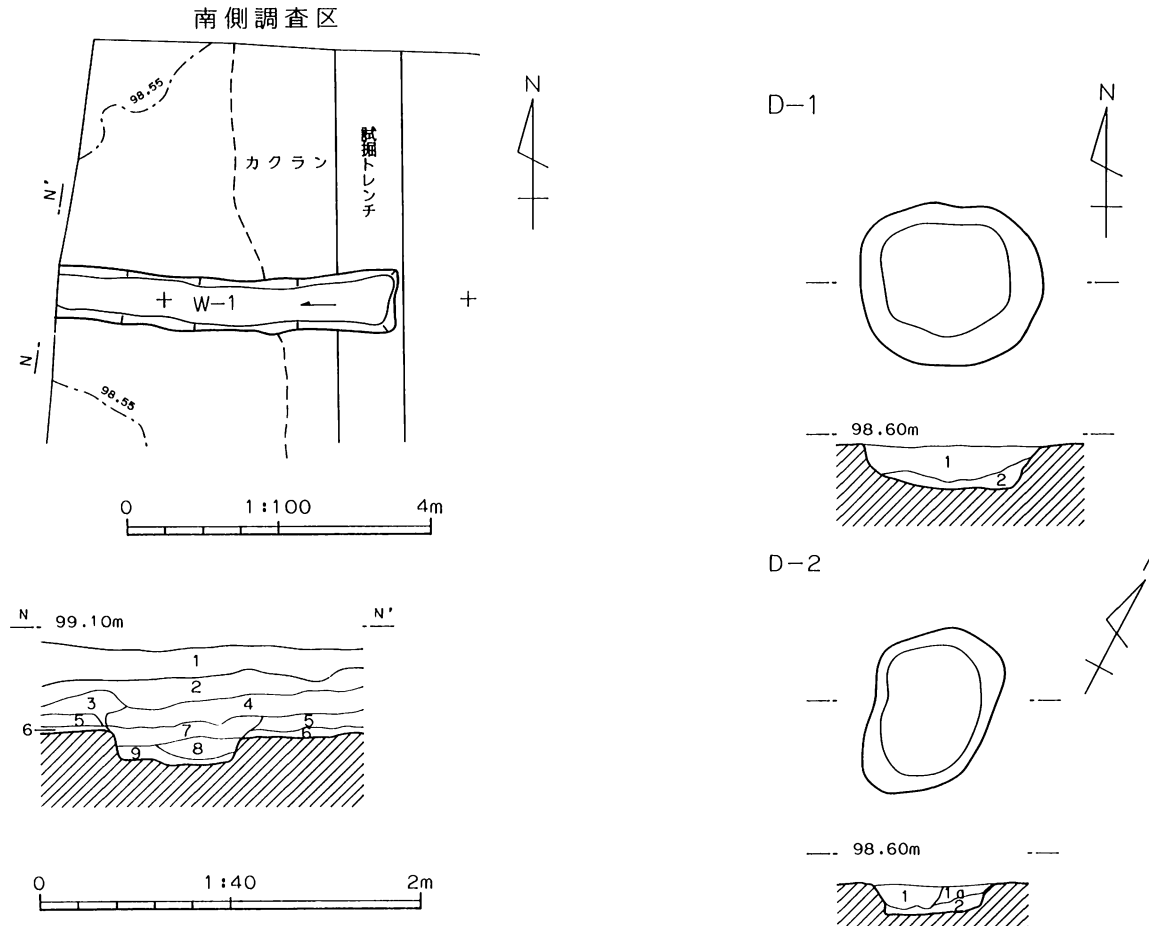
第6図（北側）畦畔平面・断面図



畦畔断面土層注記（I,J）
1．灰褐色粘質土　白色の軽石 φ0.5～2.0㎜を５％含む
2．Hr-FA を混入する黄橙色土層　粘性 締まり有り
3．暗褐色粘質土に As-C軽石を10％含む混土層
　粘性がやや有り　締まり有り
4．灰褐色細砂層　粘性 締まり有り
　Hr-FA を僅かに含み酸化を帯びる

壁セクション土層注記（K,L,M）
1．盛土　バラス カクランが入る
2．褐灰色細砂層　粘性無し　締まり有り　軽石を混入
3．As-B軽石を５％含む暗褐色土層　締まり強し
4．As-B軽石層

第７図（北側）畦畔断面図



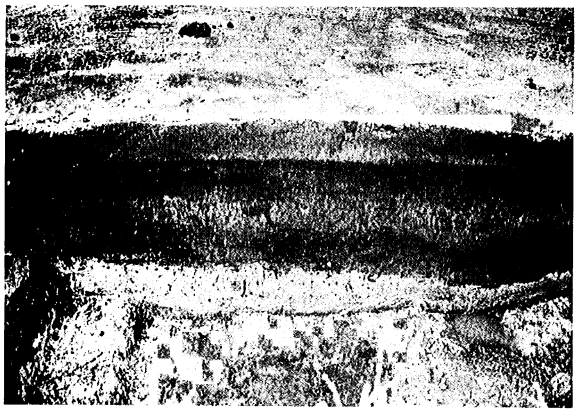
W-１土層注記（N）
1．表土　バラスが入る
2．盛土　褐灰色細砂層
3．褐色砂層　粘性無し　締まり強し
4．2層よりも明るい褐灰色細砂層　白色の軽石を多く含む
5．褐色細砂と６層の混土層　６層がブロック状に入る
6．暗褐色粘質土と As-B軽石の混土層（８：２）　締まり強し
7．褐灰色粘質土層　締まり強し　白色軽石 φ １～２㎜を多く含み酸化している
8．灰色粘質土層　締まり強し　白色軽石を僅かに含む
　（As-B軽石下の耕土層ブロック）
9．褐灰色微砂層　粘性 締まり有り　酸化している

D-１・D-２土層注記
1．褐色砂質土層　締まり有り 粘性なし 白色軽石を僅かに含む
1a．１層に２層が混入　As-B軽石を僅かに含む
2．褐灰砂質土層　軽石を含む 粘性 締まり有り　As-B軽石が混入

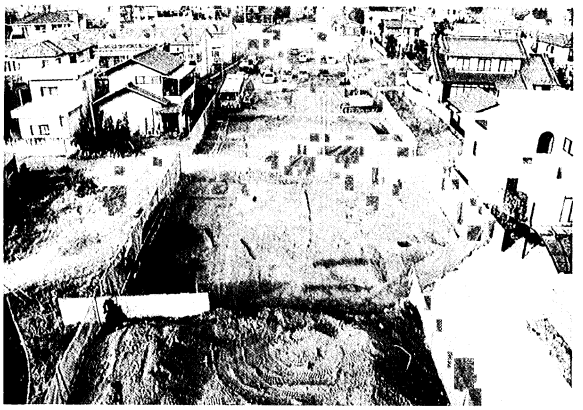
第８図（南側）W-１平面・断面図

第９図（南側）D-１，２平面・断面図

調査前現況（南から撮影）

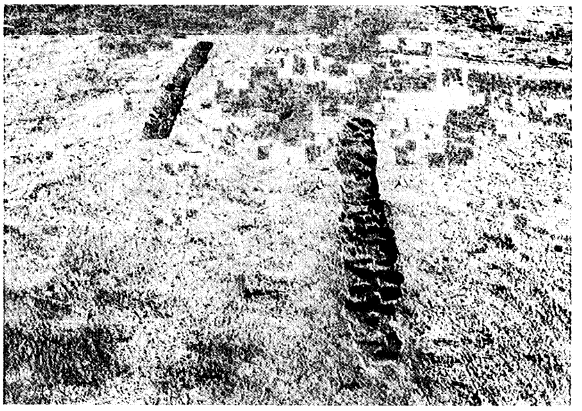


深掘り土層断面

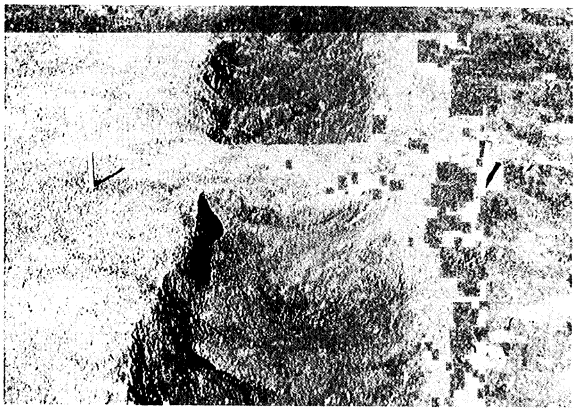


遺跡全景（南から撮影）

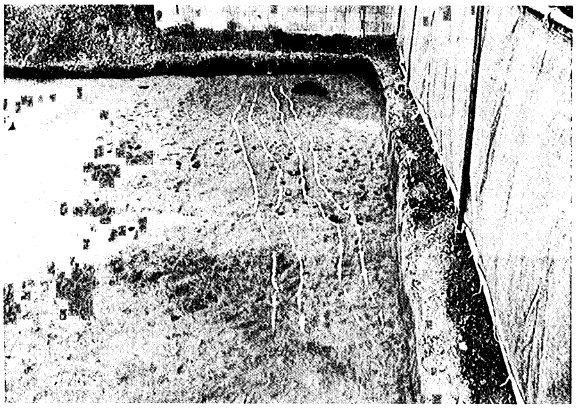
南側調査区全景（西から撮影）



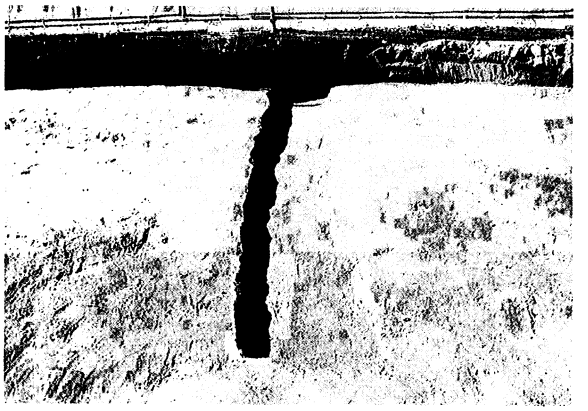
（右）W—2・（左）W—3全景



W—2セクション

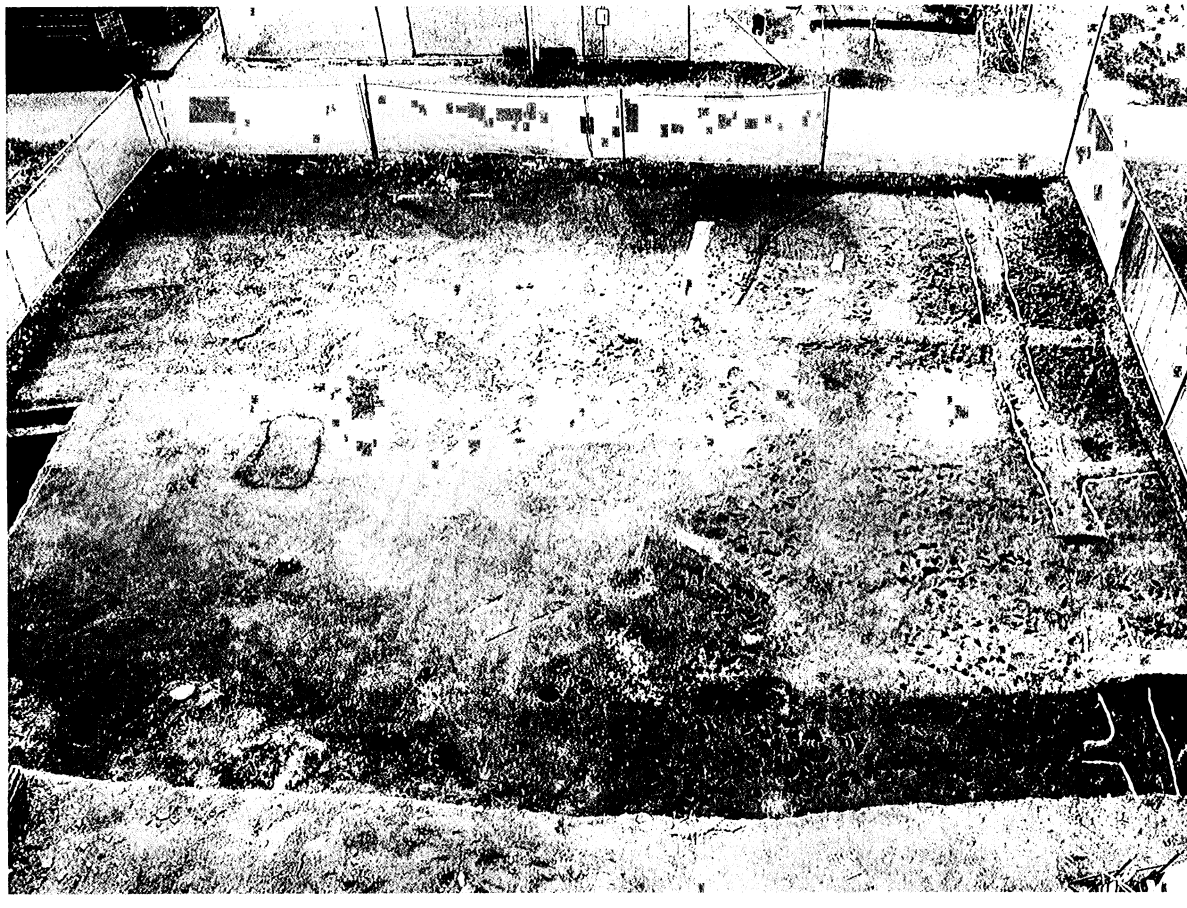


（右）W—4・（左）W—5全景



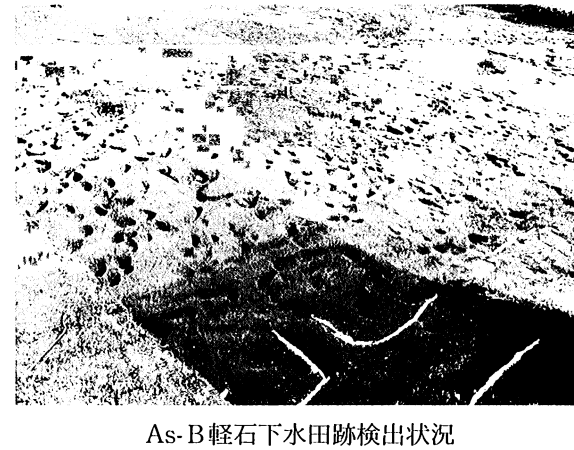
W—1全景（東から撮影）

図版 2



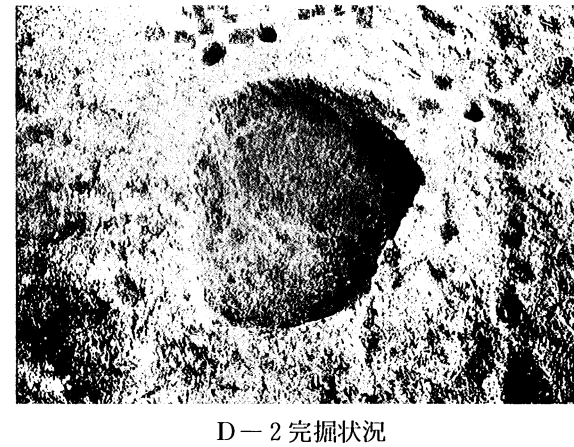
北側調査区（As-Ｂ軽石下水田跡）全景

畦畔検出状況（北から撮影）



As-Ｂ軽石下水田跡検出状況

Ｄ－１完掘状況



Ｄ－２完掘状況

抄　　録

フリガナ	ハコダカワニシイセキ
書名	箱田川西遺跡
副書名	都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社　荻野博巳
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007　群馬県前橋市上泉町664番地の4
発行年月日	西暦1999年3月18日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ハコダカワニシイセキ 箱田川西遺跡	マエバシシハコダマチ 前橋市箱田町	10201	10A88	36°21'53"	139°03'09"	19981112 19990318	750m²	都市計画道路新前橋駅川曲線道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
箱田川西遺跡	溝状遺構	古墳時代	溝状遺構　4条	須恵器、土師器片
	水田跡	平安時代	水田跡　4面	なし
	溝跡	近世以降	溝跡　1条	なし
	土坑	〃	土坑　2基	なし

箱田川西遺跡

1999年　3月11日　印刷
1999年　3月18日　発行

発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664番地の4

編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1